

明治大学法曹会会報

題字：山本進一

ご挨拶

会長 黒木 芳男



会長に就任して丸2年が経過しようとしています。会員の皆様には、明治大学法曹会の活動にご理解とご協力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

明治大学法科大学院の現状からご説明いたします。本年度、法科大学院の入学者は定員の40名でありました。今後、法科大学院修了者会員の司法試験合格者数は、各年度40名が最大限となります。

平成28年度司法試験の合格発表の結果、明治大学法科大学院の合格者は会報2頁に記載のとおり、36名にとどまりました。

明治大学法科大学院40名の募集に対し、志願者は290名に達しました。定員は、過去の実績等種々の理由から決められたものと思われるが、少なくとも志願者の3分の1以上（100名程度）の入学者を認めていくことは不可能でしょうか。

法科大学院の入学者定員の拡大を目指して活動していくことが必要と考えています。

明治大学法科大学院修了者の司法試験合格者数は36名ですが、明治大学法学部から他大学の法科大学院に進み司法試験に合格した者が49名に達していることが認められます。この他大学法科大学院に入学しようとする学生を明治大学法科大学院に引き留めておく措置を講じられないだろうかと考えます。

昨年、大学では法曹会基金を創設し、既に、多くの会員からの寄付が寄せられています。この寄付金は、帰属主体こそ、大学であります。その用途については、法曹会から推薦された委員を含めた法曹会基金運営委員の協議により司法試験受験指導のための諸費用に支出することが可能になると思われまます。

法曹会基金の創設に併せ、「司法試験支援部会」が設置されました。その活動状況は、部会長の経過報告のとおりですが、「法曹会基金」とともに、法曹会の中心的活動を担っていくことが期待されています。

今後の明治大学法曹会の活動にご協力をお願いし、ご挨拶と致します。

< 目 次 >

ご挨拶	会長 黒木 芳男	1
平成28年度事業報告		2
平成29年度事業計画		5
明治大学法曹会 平成28年度決算報告書		7
明治大学法曹会 平成29年度予算案		8
法制研究所の現況	法制研究所 事務局長 金子 敏 哉	9
明治大学法曹会基金 経過報告	明治大学法曹会基金 募金部長 弁護士 鈴木 銀治郎	10
司法試験支援部会の経過報告について	司法試験支援部会長 弁護士 嘉村 孝	11
明治大学法務研究所2期生の司法試験受験結果のご報告	明治大学法科大学院教授・弁護士 手塚 明	12
明治大学法曹会 法曹養成基金	後進法曹養成基金管理運営委員会 副委員長 菊川 洋	13
新入会員紹介（第69期）		14
明大法曹ゴルフ会のご報告	弁護士 岡本 義 弘	15
明治大学士業会のご報告	明治大学士業会 専務理事 弁護士 広井 武 昭	16
明治大学法曹教育の在り方について	明大法曹会事務局長 弁護士 門馬 博	17
平成28年度 明治大学法曹会基金寄付者名簿		18
平成28年度 年会費・寄付金納入者名簿		20

司法試験支援部会の経過報告について

司法試験支援部会長
弁護士 嘉村 孝

明治大学法曹会は、平成28年9月15日の幹事会において、本学法科大学院卒業生の司法試験合格者数の著しい減少、低迷を踏まえ、これを支援する方途を検討することになりました。そして、同日、司法試験支援部会を立ち上げ、同部会は、今日までに合計6回の審議を行い、更にその間、同時に成立した募金を企画立案する募金部会との調整等々を行ってきました。

今日までに、全国の会員から平成28年新たに設立された母校基金（税務上寄付金控除が認められる明治大学法曹会基金）へ約2,100万円近くの寄付がなされました。そして、本年1月25日の幹事会において基本的方向即ち、あくまでも母校の応援団として、その事業とバッティングすることなく、法曹会独自の事業を「司法試験支援機構（仮称）」の名で行うことが議決されました。

その基本的なポリシーは、大学や法科大学院が既に行っておられる事業とは別に、今後、我が明治大学の在学生らが直面していくであろう予備試験にとりあえずターゲットを絞り、イメージとしては、その昔行われていたような、いわゆる4研究室合同答案練習会のごときものを行う、そして、機を見て更にゼミ等々の充実を図っていく、そして、これらを通じて「考える」学生・受験生を養成し、司法試験のあらゆる場面に対応できる力を涵養していく、という方向性です。もとより在学生だけでなく出身者である卒業生や法科大学院生にも門戸は開かれています。

具体的には、本年10月から来年4月頃まで約25回の予備試験答案練習会を行います。そのためには、まず事務局の立ち上げが必要であり、指導員（講師）等人材の募集、場所の確保等々を行った上で、上記練習会を実施していきます。

こうした事業の運営は、あくまでもガラス張りをもって行うため、法曹会内の一部門としての支援機構内に運営委員会を設け、委員長のもと原則として1か月に1回の割合で行われる会議の議決を経て施策を実

施していきます。また、それを支えて下さる方は、明治大学法曹会幹事、そして会員の皆様です。

以上を前提として、今秋より始まる上記事業に要する費用の算定、即ち、上記基金をどのように使用していくかということが問題になりますが、ある程度の余裕を見て、また、この事業が立ち上げ早々であることから、予想される費用として、①答案練習会講師、採点料等 500万円、②全25回の印刷費 150万円、③運営人件費 約150万円、④予備費 200万円、合計1,000万円を見込んでおります。当該費用は、前記「明治大学法曹会基金」（平成29年5月10日現在 金2,497万円）をもって充当する予定です。

なお、受講生の増加に応じて、また、年間3,000万円を目標とした基金の経緯からも、より大型の予算に移行することも考えられます。

この方向性について、幹事会・総会でのご了解をいただいた上で、大学当局と更に折衝を重ねて、この秋からの上記具体的な実施に入りたいと思います。



明治大学法曹教育の在り方について

明治大学法曹会 事務局長
弁護士 門馬 博

1. 昨年、平成28年度明大法科大学院の司法試験合格者が36名(前年より17名減、9位、全体1583名)となり、合格率12.1%(32位/74校中)と平均22.9%を大きく下回る衝撃的結果が発表されました。続いて、平成29年度法科大学院入学者が40名となり、同30年度は、定員が40名と決まりました。明治の法曹志望者は、法学部学生で毎年約200名(学部全体約900名)程度と思われませんが、もはや法科大学院において司法試験志望者に対する法曹教育の体制があたかも崩壊したかのような状態になってきました。建学以来最大の危機的状況と言わざるを得ません。これからいったい誰が、明治の司法試験志望者を教育するのでしょうか。数字的にですが学部学生が法科大学院で勉強しようとしても8割は法曹教育を受けられないのです。さらに、明大法科大学院は、指導人材、設備は充実しているが法科大学院基準により司法試験受験指導に積極性がないという風評をよく耳にします。合格者数、合格率からみると反論も簡単ではなさそうです。そもそも、法科大学院制度は、旧司法試験と異なりストレート入学でも原則学部卒業後4年目、(法学部出身者等であれば学部卒業後3年目。旧司法試験は学部3年生から受験可能。)にならなければ司法試験に挑戦、合格できません。4年間の学部授業料生活費のほか、さらに毎年百万単位の授業料、生活費も重くのしかかります。特に地方出身で経済的に余裕のない受験生(特に学部学生)はいったいどうしたらいいのでしょうか。
2. そこで、明大法曹会は本年4月19日役員会(幹事会)で本年10月から6か月にわたり主に経済的に余裕がない学部学生を対象にして予備試験答案練習会を開催することを決定いたしました。基本的に受講を無料として、明治伝統の司法試験受験の秘訣を開示し、まず予備試験合格(法科大学院卒と同じく司法試験を受験できる資格授与。受験資格に制限なし。19歳でも受験可能)、そして早期司法試験合格を目標にいたし

ます。6年前に制度として発足した予備試験は、経済的な理由等により法科大学院に入学できない受験生に司法試験の受験資格を与えるものであり、法科大学院体制の欠点を補完しています。又、この制度は、年々受験者が増え続け平成28年、受験者は約1万名、司法試験受験者約7000名を大幅に超え司法試験の合格者、合格率共に抜きんでトップの地位を占めています。しかし、大学、法科大学院はこの対応が十分でなく受験予備校頼みとなっている状態と思われま。予備校の長所もあるでしょうが、まず、最初に法律を学ぶ学生に無償の愛情をもって法のなんたるかを直接教えるのが最高学府明治大学(旧明治法律学校)の使命と思えてなりません。

3. 明大法曹会は大学の支援機関として学部学生の早期司法試験合格を応援するために予備試験、司法試験対策財源として、平成28年3月に税務上寄付金控除付き「明治大学法曹会基金」を設立し、現在まで約2100万円の寄付が全国の明大法曹会会員から寄せられました。さらに、明大法科大学院出身にこだわらず、他大学法科大学院出身者を加え、新たに指導体制を編成、整備し、旧司法試験に培われた明治伝統の指導方式に新司法試験方式を加味してまず予備試験対策を取ることにになりました。この10年、明治は、早慶東中に後れを取っている状態ですが、予備試験、司法試験受験の戦術、戦略を確立して基本方針を実行し、明治14年、在野法曹の先駆者として開校された明治大学(明治法律学校)の名誉と信頼回復に少しでも寄与できればと思っております。

以上